

漆の音

A2200831 山田桃子

背景・目的

私は二年の前期に自分をテーマとして「私の音」という、楽器をモチーフにした作品を制作した。この作品は、「自分」というテーマで漆の作品を作るというものだった。このとき、私が今まで自分自身を表現してきたものが「音」という形のないものだ気がつき、音をだす媒体としてあったホルンという楽器をモチーフに「私の音」という作品を制作した。その作品を受けて、自分の振動を漆に伝えて実際に音を出したい、「形」と「音」という二つの表現に挑戦したいという思いが強くなり、卒業研究では漆を用いて楽器を制作することにした。短大で出会った「漆」と、共に歩み続けている「楽器」とを融合させ、私自身を象徴するような表現を目指した。また、漆による造形物を見て、漆の新たな可能性を感じたという自身の体験から、私の作品を通じてお椀・箸など器物のイメージが強い「漆」のイメージを打ち破り、漆への興味・関心を促すことを目的とした。

デザインについて

使用する素材・・・スタイロフォーム(原型)、麻布

サイズ(mm)・・・A:150×20×20、B:50×10×10、C:40×40×20

技法・・・乾漆技法

コンセプト・・・金管楽器と同じく唇の振動を音に変える媒体を楽器ととらえ、製作した。

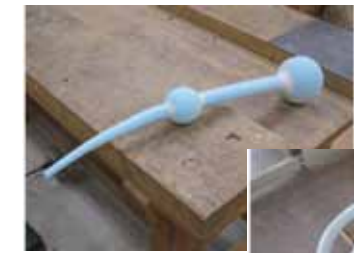
制作工程

1. スケッチ、模型作り
2. 大きさ、個数の決定
3. 原型の制作
4. 離型処理を施す
5. 布着せ
6. 布目刷り
- {5.6. を3回繰り返す}
7. 切断し、型からはずす
8. 内側に生漆を塗る(3回行う)
9. 接合(Aはその後5.6.を行う)
10. 下地付け(3回行う)
11. 下塗り
12. 追いサビ
13. 中塗り
14. 上塗り

- | |
|------------|
| 内側 |
| 15. 摺り漆 |
| 16. 胴摺り |
| 17. 摺り漆 |
| 18. 磨き |
| 外側 |
| 15. 乾漆粉を蒔く |
| 16. 生漆で固める |
| 17. 塗り |



原型制作



布着せ



布目刷り



型をはずす



接合後下地付け

感想

卒業研究テーマは、漆の振動を感じたいという興味から生まれたものだった。県の展覧会に向けて作った作品はホルンという楽器を模して作ったものだったが、管の中は空洞ではなかったため、音を出すことはできなかったからだ。そして、この三つの楽器を制作した。古楽器の形をヒントに、自分なりに形をデザインしていった。大きな螺旋状のものは、ホルンの起源であるアルペンホルンと法螺貝をイメージした。丸が二つ並んだ小さいものはイングリッシュホルンというリード楽器を参考にした。ベルを持たないのでこもったような音が出るのが特徴だ。ホルンのような渦巻状のものはナチュラルホルンからイメージを膨らませてデザインした。乾漆技法ならではの、曲線を生かした形を意識した。しかし、曲がりくねったものに布着せをしていく作業は予想以上に難しく、布が浮いてしまい、やり直すこともあった。また、大きなものに塗りや砥ぎを施すのはとても大変だった。卒業研究を通して、一つの事柄に向き合っていくという経験ができ、自己の成長に繋がったと感じている。

私の作品から、私の友人の中にも漆でできていることに驚き、興味をもってくれた人がいた。これから友人だけでなく、もっと多くの人に漆に興味をもってもらいたい。